

全酪連会報

4

2024 APR No.703



若手後継者の本音／
鷺岡 輝さん

令和5年度
全酪連 役員・監事・職員研修会

日本酪農見て歩紀／
北アルプス牧場
(長野県安曇野市)

酪農トピックス／
「第51回関東甲信越酪農青年女性会議
酪農発表大会」開催
関東甲信代表は、
外之内加奈さん、野口旭洋さん(東京)ほか

人事異動

新入職員入会式

作品募集のお知らせ

第51回 全国酪農青年女性酪農発表大会
開催のご案内

酪政連活動報告

LINE公式アカウントができました！
登録をお願いします！



 全国酪農業協同組合連合会

牧場概要

鷺岡牧場のある豊橋市は、東三河地方の中心都市で、東は弓張山系を境に静岡県と接し、南は太平洋、西は三河湾に面しており、豊かな自然と温暖な気候に恵まれています。

また、豊川用水と温暖な気候に恵まれたこの地は、昔より農業が盛んで多種多様な作物が栽培されています。養豚、養鶏などの他の畜産も盛んです。

牧場のある渥美半島の南部は遠州灘沿いに浜名湖から渥美半島の伊良湖岬まで続く表浜といわれる海岸線が続きます。またアカウミガメの産卵場所としても有名な海岸です。

鷺岡牧場（鷺岡 輝さん）は愛知県酪農農業協同組合豊橋支所（鈴木康弘代表理事組合長、生乳出荷戸数183戸 令和5年12月末時点）に所属しています。



▲ 鷺岡輝さん

今回は、愛知県豊橋市 鷺岡牧場の後継者 鷺岡輝さんにお話を伺いました。

家族構成

祖父の毅さん（81歳）、祖母の忍さん（77歳）、父の徹さん（56歳）、母のこず恵さん（49歳）、長男（介護師）、三男（大学生）そして次男の輝さん（24歳）の7人家族です。

牧場沿革

鷺岡家では以前より兼業農家で乳牛を飼育していましたが、輝さんの曾祖父が高校卒業後（昭和30年中頃）、本格的に酪農に舵を切ったのが始まりです。当時8頭で大規模農家と言われていた中で鷺岡牧場は8頭以上を飼育していました。

その後、毅さんの奥さんである忍さんが昭和42年に嫁いで二人三脚で酪農を続けてきました。しかし数年前に毅さんが病気により酪農を続けることが困難になり、地元の乳業メーカーである「中央製乳株式会社」に務めている父の徹さんが休日に酪農を手伝い、また母のこず恵さんが酪農に本格的に関わることとなりました。

輝さんは当時高校生でしたが、この頃から本格的に作業手伝いを始めました。

地元愛知県立農業大学校を卒業した当時は、こず恵さんが牧場主で、近隣の牧場へ従業員（ヘルパー）として従事し、様々な事を習得してい

▼ 伊古部海岸



▲ 鷺岡牧場

きました。

令和3年に祖母の忍さんから経営譲渡を行い、現在は輝さんが牧場主として牧場経営を行っています。今はこず恵さんと2名で作業をしており、子牛の飼養管理全般、飼料給与はこず恵さんが、それ以外は全て輝さんが行っています。

若手後継者の 本音

Vol.68



▲ 牛舎内部



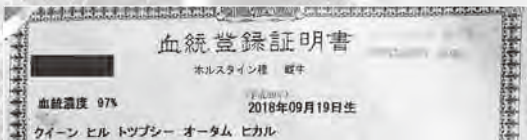
▲ 搾乳作業



▲ バルククーラー



▲ 89点のヒカル



▲ 登録書

〔経営概況〕

所 属 愛知県酪農農業協同組合 豊橋支所(鈴木康弘代表理事組合長)
 家族構成 祖父の毅さん(81歳)、祖母の忍さん(77歳)、父の徹さん(56歳)、
 母のこず恵さん(49歳)、兄(介護師)、弟(大学生)、本人の輝さん(24歳)
 飼養頭数 経産牛36頭、育成牛21頭

前回の取材から4年 コロナ禍を乗り越えて若手牧場主が 見つめる未来に向かって!

特 徴

前回の取材から4年経過した現在は、経産牛36頭、育成牛21頭となり、約2倍にまで増頭しています。牛舎は繋留の対頭式です。

育成に関しては原則、自家育成をしています。自家育成に拘る理由は哺育時から人に馴れさせる事で穏やかな牛を作ることができるとのことです。

ビフォーアフター 就農して変化したこと

● 始めたこと

- ・ 乳用牛群検定の加入(令和4年より)
- ・ 体型検査の実施(年2回実施) 日本ホルスタイン登録協会

現在89点が最高。目標はエクセレントを取ることに。

● 更新したもの

更新項目	更新内容
バルク	1tタンク ↓ 1・6tタンク
換気扇	2基 ↓ 6基増設
ウォーターカップ	0基 ↓ 22基に新設
牛床マット	0床 ↓ 40床全ての牛床に設置
育成牛舎	資材庫 ↓ 育成牛舎に改築

● これから更新、新規導入を考えているもの

更新項目	更新内容
搾乳機器全般	機器全般が古いので早めの更新を考えています。
フォークリフト	今所有していないので、作業の効率化を図るためにも導入を考えています。
パドック	当初は運動場を考えていたが、野生動物が多いため皮膚病の感染を防ぐためにパドックを設置したい。行く行くは6か月齢まで自家育成として作業の低減を図るためにも頭数の半数近くを預託も将来的には考えています。

輝さんが事業継承した令和3年の頃は、まだ牛舎内は祖母の忍さんが酪農に従事していた頃と変わっておらず、搾乳機器、給水機器など昔のままでした。そこで、心機一転、少しずつ自身の酪農環境を変えるべく出来るところから更新をしてきました。

周囲の酪農家とのつながりについて

今はまだ正式に改良同士会に加入していませんが、県の共進会などの行事には積極的に参加しています。父の徹さんは定年後、酪農を手伝ってくれると言ってくれています。そうなれば少し余裕が出てくるので、今以上に色々な行事に参加し、豊橋地域だけではなく県内

今後・将来の目標について

全域ひいては全国に繋がりを作っていきたくて考えています。

1つ目は引き続き規模拡大を行うこと。現在の牛舎には最大で40頭の搾乳牛を飼養することが可能です。今年にはその夢が叶い40頭規模になる予定です。更に牛舎の隣に新牛舎を増設し



ビフォー

▲ 資材置場でしたが…



アフター

▲ 育成牛舎に変わりました



ビフォー

▲ 以前はウォーターカップは付いていませんでしたが…



アフター

▲ ウォーターカップが付きました



ビフォー

▲ 以前は牛床にマットは敷いていませんでしたが…



アフター

▲ 全ての牛床にマットを設置しました

親から若手後継者へ一言

これからは若者の時代。どんどん酪農を取り巻く情勢が目まぐるしく変化していくと思います。新しいものをどんどん吸収して欲しい。自分のやりたいと思ったことを信じてこれからも進んで欲しい。今はまだ若いけど独り身だから体には気を遣って欲しい。支えてくれる人を早く見つけてくれれば…。

て、最大で80頭に増頭したいと考えています。2つ目は6次化産業への挑戦！道の駅などでのジェラート店の出店も行いたいとの考えは今も変わっていません。しかし今の状況を見て現実を目に向けてまずは確実にできることから進めていこうと思います。

また、今は受精卵移植による和子牛借り腹生産のお手伝いをしていますが、いつかは和牛生産を自分の手でしたいと考えています。

全国の若手後継者の皆さんへの一言！



後継者の皆さん、チャレンジ精神を忘れずに頑張りましょう！

挑戦出来る内に何でも挑戦したほうが良い！

夢は大き方が、やりがいがある！この精神を今も忘れずに地に足をつけて頑張っています！

全酪連 役員・監事・職員研修会

2月8日(木)～9日(金)、令和5年度全酪連役員・監事・職員研修会を宮城県仙台市「江陽グランドホテル」にて開催いたしました。全国の会員組合の役員・監事を中心として20会員から総勢87名のご参加をいただきました。ありがとうございました。

今回の研修会は、ANAビジネスソリューション株式会社のヒューマンエラー対策専属講師である田頭洋一氏による「ヒューマンエラー対策」と、公認会計士服部会計事務所の公認会計士・税理士である服部夕紀氏による「監事の役割と監査のポイント」～監事監査の本質的な課題及び黄色信号への対応方法を踏まえて」の2本の研修を行いました。

初日の田頭氏による「ヒューマンエラー対策」では、「誰の責任か」ではなく「どのようにすれば防止できたか」というテーマのもと研修がはじまりました。ヒューマンエラーをゼロにすることはできないが、人は間違えるという前提で物事を考えておけば、その影響をコントロールする事は可能という基本的な考え方に基づき、人はなぜエラーを起こすのかという原因や、その発生を防止する対策について、実際の事例のもと、具体的な手法を学びました。最後に、大事なことは仕組みと行動であり、行動を支える仕組みを作る必要があり、仕組みを作れば、その仕組みを支える行動を誠実にやる必要があると教えていただき初日の研修は終了しました。

2日目は、服部氏による「監事の役割と監査のポイント」について、昨年より一歩踏み込んだ内容の研修が行われました。服部氏の研修内容を一部抜粋して掲載いたします。



監事の役割と監査のポイント
～監事監査の本質的な課題及び
黄色信号への対応方法を踏まえて

公認会計士服部会計事務所
公認会計士・税理士 服部夕紀氏

監事の職務と連帯責任

監事の役割は、職員に対する監視・監督ではなく「理事の職務執行を監視・監督すること」です。監事は、理事及び経営管理委員の職務の執行を監査する機関であり、単独で権限行使ができる「独任制」という制度で巨大な権限を与えられています。

監事は、違法性の監査はもちろん、妥当性の監査についても「著しい損害」「著しく不当」が認められた場合は、監事は「おかしい」と言わなければなりません。そして、監事監査報告において意見表明しなければなりません。監事監査報告において意見を表明することにより法律上の保証を行うこととなります。また、適法か違法かという違法性にかかる判断は多数決で決めるべき性質ではないことから、監事には一人ひとりが単独で権限を行使できる「独任制」が導入されています。

一方で、監事は大きな責任も負っており、例えば幅広い事業を営む組合組織では、監事は役割分担を定め監査を行います。監事は独任制であるがゆえに組合組織に対して連帯責任を負うこととされています。自分の担当してない分野における責任に問われる事態を防ぐには、監事同士でいかに密接に情報共有を図るかが重要です。

経営判断の原則

監事は、理事の経営判断の合理性を見る場合、以下の具体的着眼点が重要です。判断の前提となる契約や事実、他の当事者の意向等を調査し、現時点での組合組織を巡る権利義務関係その他の状況等を理事は正確に把握しているか？つまり、誰かが言っていることを鵜呑みにしていないか。2つ目は最初から結論ありきではなく、いくつかの選択肢を比較しているか。初めから結論ありきでは良し悪しがわからず、比較するからこそ様々なことがわかってきます。3つ目は、必要に応じて専門家を活用しているか。4つ目は、内在するリスクを分析し回避策を十分に講じているか。これらの4項目に則り大事な議案が協議されているか、是非確認してください。



非常勤監事の日常監査の工夫と判断の在り方

非常勤監事が監査の実効性を高めていくには、いくつかの工夫が求められます。重要会議への出席や重要書類の閲覧は、先に述べた経営判断の原則がきちんと成立しているかを考えながら確認していただきたいです。また、職員との面談は非常に重要と考えますので、多くの職員に声をかけ会話をしてください。職員の状態が普段と違うことにすぐに気付けることが、自身を守ることに繋がります。職員も、非常勤監事が出勤していない間に起きた異例なことなどを非常勤監事に必ず報告していただくことを進めます。監事監査は、情報が重要です。

日々組合組織の業務をこなしている常勤理事や職員は視野が狭くなりがちであるのに対して、非常勤の理事・監事は歩引いた視点から本質や潜在的リスクを見られる立場にあります。非常勤監事ならではの違和感を是非大事にしてください。監事が出勤していない間に起ったことなどを非常勤監事に定期的に報告する仕組みの構築も重要です。報告が不当に遅れる

ようであれば、理事側に申し入れすることも考えていいでしょう。

監事監査における本質的な課題

繰り返しですが、監事の本来の業務は理事の職務執行の適法性を監視・監督することです。そのためには、健全な懐疑心をもって監査に臨む必要があります。「健全な懐疑心をもって」ということは、理事や職員に対して「悪いことをしていないか」と疑いながら監査をするということですが、他方では反感を買うこともあり、組合組織の重要な情報にアクセスできなくなるリスクがあるなど人間関係にも影響を及ぼす可能性があります。非常に難しいところです。ですが、監事は、今自分の取っている立ち位置が監事監査において望ましいものになっているか、常に自問自答してみてください。理事や職員も、監事は常に難しい問題に直面していることを慮り、情報提供は臆することなく行っていただきたいです。そのことにより監事監査はきちんと機能し、健全で持続可能な組織運営が可能となります。

常勤理事との信頼関係の構築とあるべき関係 監事と理事とのあるべき関係

内部統制で非常に重要なことは、統制環境、言い換えれば職場の風土です。トップは役員や職員に対してモチベーションが上がるようなメッセージをきちんと発信できているか、監事にはそこを見えていただきたい。役員同士のコミュニケーションがきちんととられているか、これも統制環境に大きく影響します。

監事と理事との関係を考える際には、有事と平時の際で区別することが望ましいです。酪農専門農協は、金融事業を扱う総合農協に比べ役員同士の牽制がやや弱い部分があり、それに悩んでいる監事もいらっしゃるでしょう。根拠のあるおかしな部分が見つかった際には、理事に対して積極的に発信すべきです。監事は、不正の兆候である「黄色信号」に接したら、常勤理事に「黄色信号」を見つけたことを説明することで、信頼関係を維持しながら健全な懐疑心を働かせることが可能となるでしょう。

不祥事において監事が任務懈怠を問われる理由

「任務懈怠」とは「やるべきことをやっていない」ということですが、不祥事において監事が任務懈怠を問われる理由の1つは、『監事が感知すべき不祥事の兆候、いわば「黄色信号」を感知できないこと』に因ります。これは、理事や職員が監事に情報をもたらさないのが一番の原因でしょう。もう1つは、『監事が「黄色信号」を感知しても、適切な行動を取ることができていないこと』。一般の事業会社でも、監査役の行動が不十分なため、より深刻な事態に発展することが見受けられます。監事は、「黄色信号」を感知したにもかかわらずそれを放置し、後に大きな不祥事につながったとき、善管注意義務違反に問われるリスクが高まります。

監事が「黄色信号」を感知した後に取るべき具体的な対応策

監事が「黄色信号」を感知したら、なにより情報の共有が大切です。色々な方向から情報が入ってくるように仕掛けてください。また、内部監査結果も非常勤監事にも共有してください。時には弁護士等外部の専門家へ相談することも必要です。さらに、監事から理事会への報告が必須です。これは監事がやらなければならない法定事項（農協法第35条5③及び④）です。不祥事は監事のみで解決できる問題ではありません。監事は、自ら執行部門に指揮命令して是正措置を講じることができないため、適時適切に理事会に事実の報告をすべきです。非常勤理事との関係構築も重要です。

監事が自ら調査することもあれば、監事自らの調査に限界がある場合は第三者委員会等の組成を含め、外部専門家等の力を借りることも視野に入れるべきです。

監事に求められる、調査結果等を踏まえた行動

不祥事に絡んだ事案が理事会に付議される場合、理事会への出席を義務づけられている監事としては慎重な対応が必要です。監事にとって疑義の

ある議案が理事会に付議される場合には、監事は相応の準備を行い、適切に問題点を指摘し、意見を述べる等の具体的な対応を行うことが求められます。必ず事前に議案の資料をとりよせ、監事同士で戦略を練るとよいでしょう。理事会の議事録は非常に重要です。理事会で、誰がどのような発言をしたかが、裁判での役員責任の追及の有無に直結します。

監事監査報告書での意見表明は、組合組織の経営に重大な影響を及ぼしかねないため、事前に不祥事を予防し、あるいは不祥事の芽が小さいうちには是正するよう理事側に助言・勧告することを心掛けるべきです。いざ意見表明が必要となった場合には、毅然とした態度で臨んでください。

感知した「黄色信号」へ適切に対処するための心構え

監事は、業務執行権限を有さない役員として、理事会とともに業務執行への監督機能の一翼を担っていることを、職務の基本と認識しましょう。そして、「黄色信号」を感知したときは、何らかの具体的なアクションを早急に起こしましょう。しかも、裁判になった時に、監事が節目節目でやるべきことをやったりと立証できるように形にして残しておくことも重要です。また、非常勤監事の候補者選定に対して監事として厳正に同意権を行使するようにしてください。非常勤監事が経営トップに対し直言を果たせる人物か否かを慎重に検討し、当該非常勤監事の選任議案に関し、農協法上付与されている同意権（農協法35条の5⑤＝会社法343条①）を厳正に行使するべきです。

参考

日本監査役協会
「重大な企業不祥事の疑いを感知した際の監査役等の対応に関する提言 ―コーポレート・ガバナンスの一翼を担う監査役等に求められる対応について―」

平成24年9月27日

→ https://www.kansa.or.jp/wp-content/uploads/support/el_csi120928-1.pdf



見て歩紀

No. 370

北アルプス牧場
長野県安曇野市

品質で目指す 持続可能な酪農経営！



所在地概況

長野県安曇野市は、2005年に5つの町村が合併して誕生しました。人口は約10万人で、米の生産量が県内で最も多い米処ですが、湧水を利用したワサビの産地としても知名度が高いです。

市の統計によると、年間500万人ほどの観光客が訪れる観光地でもあります。開けて景色の良い土地柄や県の中核都市となる松本市に隣接することなどから、最近では



牧場の概況

移住先としても注目されています。今回ご紹介する北アルプス牧場は、南信酪農業協同組合(三村誠一代表理事組合長)に所属し、この魅力あふれる風光明媚な安曇野市にあります。

北アルプス牧場は安曇野市の市街地から少し離れた北アルプスの麓、豊里という地区にあります。牧場か



らは安曇野の町並みを見渡せます。現在の北アルプス牧場は、経産牛30頭、育成牛20頭の規模です。一柳康弘さんが牧場管理全般を担っています。北アルプス牧場がある豊里地区は、もともとは陸軍の演習地でした。それが、終戦とともに開拓農地として開放されました。

そして、この開拓農地に一柳康弘さんの祖父が入植した後、1頭の育成牛を飼い始めたのが北アルプス牧場の始まりです。

一柳康弘さんご自身は、地元の農業高校を卒業後、酪農学園大学に入学しました。大学卒業後は北海道道東にあるJAに就職し、人工授精師として3年間働きました。

その後、一柳康弘さんは実家の酪農を担うために安曇野へ戻り就農されました。現在、就農して12年になります。

循環型酪農の実践

北アルプス牧場は、循環型酪農を経営の基盤としています。

現在の飼料作付面積は、牧草地がおよそ18ha、デントコーンがおよそ8haです。牛に与える牧草は全て自給飼料で賄っており、年間に発生する糞尿は余すことなく圃場に還元しています。

牛糞を堆肥化するにあたっては糞殻を使用しています。年間に消費される糞殻の量は2t車にして100台程です。

以前は、ライスセンターを何度も往復して必要量をなんとか確保していました。しかし、ここ数年は糞殻の利用先が減ったためか、米の生産組合の方から牧場へ運んでもらえるようになったそうです。

不要な副産物とされる糞殻を、堆肥の副資材や牛床の敷料として活用することで、地域産業との協力関係を築いています。

また近年では、近隣地域で遊休地が増えてきています。そうした中、土地の利用依頼が寄せられることも



あります。

こうした依頼を受けて作付面積を年々拡大していった結果、現在では成牛に与える粗飼料は一番草のみで賄えるようになりました。一方で、牧草が余るようになってきたため、牧草を販売して収益化しています。

直売店の経営

北アルプス牧場では、1995年から直売店の経営を開始しています。

直売店では自家製加工品の低温殺菌牛乳やソフトクリームが売れ筋です。他にも、地元産の野菜や地ビールなどの商品も取り扱っています。

自家製加工品に使われる原乳の量は、年換算で北アルプス牧場の総乳量の一割程度です。牛乳の殺菌方法は、牛乳本来の風味を損なわないようにとの思いから、ノンホモかつ65℃30分の低温殺菌に拘っています。

販売している自家製加工品は長らくの間、低温殺菌牛乳、ソフトクリーム、カップアイスといった品揃えでしたが、一昨年に新たな試みとして飲むヨーグルトの製造販売を開始しています。牛乳のように毎日でも飲むものをとの思いから、甘みを抑えたすっきりとした味わいとなって



います。また、昨年からは手作りチーズの製造販売にも取り組んでいます。観光地である安曇野という立地に恵まれたこともあり、現在の来客者数は年間10万人程です。なお、直売店は康弘さんの兄夫婦が主に切り盛りされており、最近ではSNSを活用したマーケティング戦略などにも取り組んでおられます。

低温殺菌牛乳へのこだわり

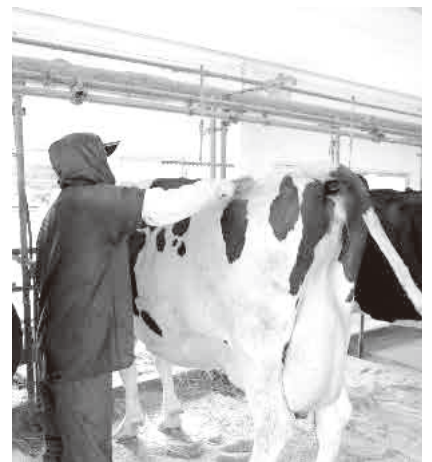
「低温殺菌の牛乳は、タンパク質の熱変性を極力抑えているため、量

産されている高温殺菌牛乳にはないおいしい風味が特徴の1つです。その反面、牛乳に移った牛舎の臭いが表れ易い短所がある。」というのが一柳康弘さんの考えです。

「これは低温殺菌牛乳が新鮮により近いためであり、そもそも牛乳は牛の血液から出来ており、その血液には絶え間ない呼吸によって十分な酸素が取り込まれているため、牛舎の臭いが牛乳に移るのは当然だと言えるはずですが。牛乳から感じられるこうした臭みの有無は美味しさを左右するため、牛舎の臭いをいかに抑えられるかが低温殺菌牛乳において重要だと考えています。」



こうした考えから、北アルプス牧場では牛舎の臭いを抑える目的も兼ねて十分な換気や牛舎内の壁拭き、一日おきに牛体をブラッシングしています。



また、これらと同様に牛舎の臭いの低減に繋がっているのが、粗飼料を主体とした給餌方針です。

北アルプス牧場では、濃厚飼料を抑えた粗飼料主体の給餌方針によって、牛に負担の少ない飼養管理を目指しています。この給餌方針には良質で十分な量の粗飼料を必要としますが、結果として牛の健康状態への苦慮を軽減させています。そして、粗飼料の十分な給与によって、ルーメン等腸内環境を整えさせるなどして糞自体の臭いを抑え、軟便にもなりづらくさせています。

北アルプス牧場で飼っているのはホルスタイン種のみですが、乳脂肪率は年間を通して3・8%を下回らず、年平均では4・2%を超えています。これも、粗飼料が十分に与えられているからと言えます。

粗飼料を主体とした給餌方針は乳量の増加に繋がりにくい短所がありますが、こうして得られた牛乳を自家製加工品の原料として活かすことで、北アルプス牧場では直売店の収益性の向上に繋がっています。

「循環型酪農の利点は、自給飼料の確保と糞尿を自家処理できる環境形成に尽きますが、牛乳を自家殺菌処理する当牧場においては乳製品の品質を下支える重要な役割も担っています。いずれにせよ、危機的な飼料高に直面している今、自給飼料の確保はもはや必須とも言えます。そうした中、遊休地の増加は圃場確保のチャンスと捉えることもできそうです。こうした土地の活用によって経営の基盤をより強く固にしていくことが、循環型酪農を継続させる上で必要不可欠だと私は思います。」

一方、この収入源の土台とも言える牛乳の品質を成す給餌方針は、十分な圃場面積からなる良質な粗飼料の供給体制の上で成り立っています。このことから、北アルプス牧場では循環型酪農と直売店が互いに支え合うことで経営が成り立っていると言えます。

これからの展望

北アルプス牧場では、経営規模は現状を維持したまま、直売店の売上を伸ばすことで経営を発展させ、持続可能な酪農経営を目指したいと考えています。

直売店では新たに始めた手作りチーズと飲むヨーグルトが、閑散期の売上対策やネット販売の売上拡大に繋がることを期待しています。

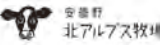
一方、コンビラの導入を検討

最後に


「循環型酪農の利点は、自給飼料の確保と糞尿を自家処理できる環境形成に尽きますが、牛乳を自家殺菌処理する当牧場においては乳製品の品質を下支える重要な役割も担っています。いずれにせよ、危機的な飼料高に直面している今、自給飼料の確保はもはや必須とも言えます。そうした中、遊休地の増加は圃場確保のチャンスと捉えることもできそうです。こうした土地の活用によって経営の基盤をより強く固にしていくことが、循環型酪農を継続させる上で必要不可欠だと私は思います。」

一柳康弘さんはこのように力強く話しをされました。


今後の北アルプス牧場、直売店のますますの発展を祈念しております。



HP
→ <https://www.bokujo.co.jp/>



Instagram
→ https://www.instagram.com/kitaalps_bokujo/



東京
支所発

「第51回関東甲信越酪農青年女性会議酪農発表大会」開催 関甲信代表は、外之内加奈さん、野口旭洋さん

関東甲信越酪農青年女性会議（吉田英子委員長）は、3月18日(月)～19日(火)の2日間、茨城県水戸市「ホテル・ザ・ウエストヒルズ・水戸」において、関東甲信越管内の酪友・関係者104名の参加を得て、第51回酪農発表大会を開催しました。

大会は、木名瀬一也監事（茨城県）の総合司会、中村肇委員（埼玉県）の開会宣言、興野礼子監事（栃木県）による綱領唱和で始まりました。

その後は吉田委員長より主催者の挨拶があり、来賓として農林水産省関東農政局生産部畜産課の川本博康課長（酪農経営発表の部・審査委員長）、茨城県農林水産部畜産課の福田英仁技佐、茨城県酪農業協同組合連合会の朝倉実行代表理事長よりご祝辞をいただきました。

本大会は、コロナ禍になって以降では久しぶりの2日間の実開催となり、懇親会では久々の再開に喜び合う場面も数多くありました。

審査の結果、酪農経営発表の部では茨城県酪農青年女性会議の外之内加奈さん（美野里酪農業協同組合）が、酪農意見・体験発表の部では群馬県酪農青年女性会議連絡協議会の野口旭洋さん（群馬中央酪農業協同組合）が最優秀に選出されました。

なお、外之内さん、野口さんは、7月に名古屋市内で開催されます第51回全国酪農発表大会において、関東甲信越代表として発表されます。

全国大会でのお二人のご活躍をお祈りしています。
(I.F)



▲ 外之内加奈さん



▲ 野口旭洋さん



名古屋
支所発酪農生産研究会
「第2回 国内視察研修」開催

去る2月19日(水)、全国酪農飼料(株)東海工場及び衣浦埠頭株式会社にて、酪農生産研究会の第2回国内視察研修開催され、総勢27名(事務局含む)が参加されました。

研修内容は港湾施設並びに配合飼料工場内の視察、そして配合飼料の製造工程についての研修会という流れで行われました。

最初に衣浦埠頭株式会社を訪問し、港湾施設を視察させて頂きました。残念ながら雨天のため、荷上げ作業を視察することは出来ませんでした。大型貨物船上に立入りする事ができ、大変貴重な体験を

させて頂きました。参加者からは、普段見る事が出来ない光景に感動の声が挙がりました。

次に全酪飼料(株)東海工場へ訪問し、工場内の製造設備を丁寧に説明受けながら視察しました。研修会の部では、全国酪農(株)東海工場 河野工場長による工場概要、池田製造課長による配合飼料製造に関してレクチャーして頂き、配合飼料製品が出荷されるまでの製造工程～品質管理を勉強させて頂く事が出来ました。

今回の視察研修で得た情報が、酪農生産者と酪農関係者を繋ぐ一助となる事を願います。 (S.K)



▲ 大型貨物船上での説明風景



◀ 研修風景/
東海工場概要(河野工場長)



▲ 港湾オペレーター室での作業内容説明



▲ 飼料製造の説明(池田課長)

名古屋
支所発

小山浩子さんによる「料理講習会」を開催！

2月22日(休)にむらさきかん（愛知県岡崎市）において、料理講習会を開催しました。例年、中部酪農青年女性会議主催による女性研修会を開催していますが、今回は愛知県酪農協青年女性部との共催となりました。

「乳和食」で有名な料理家・管理栄養士である小山浩子さんを招いての料理講習会は、岡崎市の地鶏である「岡崎おうはん」と牛乳を使い、新しいレシピを楽しく作ることができました。

「“ミルク衣”で、鶏カツ」や「“ミルクめんつゆ”で煮る、じゃが芋の鶏そぼろ煮」など計6品を作り、参加者みなさんでおいしく頂きました。

食事後に小山さんの講話をいただき、牛乳を使って料理が減塩でき、健康に好影響が得られるばかりか、おいしい料理ができるお話でした。

予定の時間を1時間も上回る講習会となり、みなさん大変満足な時間を過ごすことができました。

(S.M)



料理の数々 ▲▶



▲ 集合写真



▲ 楽しく料理中



楽しく食事中 ▶

大 阪
支所発

山口県酪農青年女性会議

研修会「令和5年度 第20回酪農語る多会」
かるた

2月16日(金)山口県酪農青年女性会議(松永委員長)は山口県山口農林事務所畜産部において「令和5年度第20回酪農語る多会」を開催しました。参加者は生産者、山口県立農業大学校酪農専行の学生、県、農林事務所関係者、関係団体総勢28名。研修会は全酪連技術顧問永井秀樹氏による「乳頭に優しい搾乳～毎

日の搾乳作業を見直そう～」です。基本的な搾乳方法として十分理解している内容ではありますが、再度見直そうという講演でした。ラクトコーダーのデータをグラフ化し、皆さんからはとても分かりやすかったと好評でした。研修後はフリートークとなり歓談後、閉会となりました。(A.O)

大 阪
支所発中国地区酪農政治連盟協議会
自民党酪政会所属議員との「意見・情報交換会」を開催

3月6日(水)中国地区酪農政治連盟協議会(三宅委員長)は自由民主党本部にて自民党酪政会所属の国会議員と意見交換会を開催しました。同協議会からは乳脂肪分率の取引基準の見直し、飼料高騰に対する支援

について要請を行いました。議員の方々からは厳しい酪農情勢について真摯に向き合う発言が多くあり、活発な意見交換会となりました。その後、ホテルルポール麹町に場所を移し、情報交換会を実施しました。(A.O)



協議会会員



酪政会所属国会議員

福岡
支所発

熊本県酪農女性部協議会が 「第47回酪農女性の集い」を開催！

2月28日(水)、熊本県酪農女性部協議会（富田裕美会長）、熊本県酪農業協同組合連合会（隈部洋代表理事会長）が主催する「第47回酪農女性の集い」が開催されました。新型コロナウイルス感染症のため制限して開催した昨年度（約400名）を上回る約540名の一般生活者と酪農女性が会場の熊本城ホール（熊本市）に集いました。

午前の部では、熊本県合志市出身、「ソングコンテストグランプリ2023」に於いて作曲した「ふうふ」がグランプリを受賞。郷里の誇りである八代亜紀さんのバックでサクスを演奏してきた演奏家の谷川天龍さんが登壇し、昨年末にお亡くなりになった亜紀さんを偲んで代表曲を奏でました。

次いで、人吉地域、菊池地域、熊本県酪農女性部協議会毎に酪農女性たちのパワフルな活動について、劇を交えて分かり易く報告し「明日があるさ」を熱唱しました。

午後の部では、熊本県を拠点に活動しテレビ・ラジオ・CMに引っ張りだこのローカルタレント、県民なら誰でも知っている太田黒浩一さんが登場し、「笑顔で元気が一番」と題したバリバリ熊本弁の機関銃トークショーで会場に笑顔と元気を届けました。「体も気持ちも元気が一番、牛乳を飲んで体を健康に、心は何事もポジティブにとらえてくよくよしない」と90分がアツと言う間のトークショーでした。

最後に阿蘇ミルク牧場の乳製品や特産品のセットが当たるお楽しみ抽選会が開かれ、惜しくも外れた一般生活者の皆さんにも乳製品のお土産が配られ、笑顔!(^^)!で会場を後にしていました。

この酪農女性の集いは一般生活者に酪農を身近に感じ、ますます牛乳・乳製品に愛着を持ってもらい消費拡大へ繋がる大変意義のあるイベントであると思います。
(T.S)



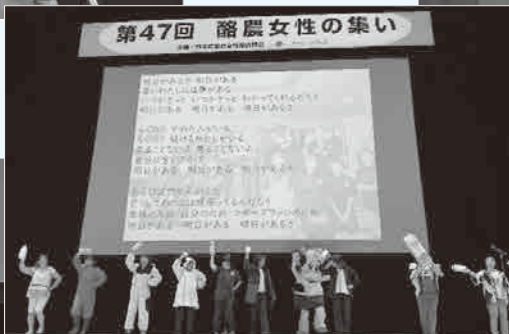
▲ 隈部理事長
(熊本県酪農業協同組合連合会)
の祝辞



▲ 富田会長
(熊本県酪農女性部協議会)の挨拶



▲ 谷川さんの甘いサクソ演奏



▲ 熊本県酪農女性
による
「明日があるさ」



▲ 大田黒さんの
熊本弁トークで
笑いの渦が



▲ 劇を交えた活動報告

原稿募集

「酪農トピックス」では皆様からの記事を募集しております

共進会、B&W、酪農祭り、親睦スポーツ大会といった催事情報から組合住所の変更や移転等案内情報、そして直営店情報や組合の自慢情報まで、酪農トピックスでは会員の皆様からの原稿を募集しております。本コーナーは会員の皆様の情報交換の場です。ぜひご活用ください。

送付先 皆様のお近くにありますが本会支所までご送付・ご連絡ください。

■札幌支所

〒060-0003
札幌市中央区北3条西7丁目1 酪農センター 5階
tel. 011-241-0765

■名古屋支所

〒460-0008
名古屋市中区栄1-16-6 名古屋三蔵ビル3階
tel. 052-209-5611

■仙台支所

〒980-0021
仙台市青葉区中央1-7-20 東邦ビル3階
tel. 022-221-5381

■大阪支所

〒532-0011
大阪市淀川区西中島5-14-10 新大阪トヨタビル6階
tel. 06-6305-4196

■東京支所

〒151-0053
東京都渋谷区代々木1-37-2 酪農会館4階
tel. 03-5931-8011

■福岡支所

〒812-0016
福岡市博多区博多駅南1-2-15 事務機ビル7階
tel. 092-431-8111

酪農青年女性会議 LINE公式アカウント 友達募集中



友達追加方法

1



ホーム画面へ

2



友だち追加ボタンを
タップ

3



「QRコード」から
読み取る

4



友だち追加で
完了



@642bpcwk

最新情報をお届けします。



QRコードで追加
もしくは
ID : @642bpcwk
で検索！

今般の人事異動について、次のとおりお知らせします。

人事異動

新	旧	氏名
<p>■令和6年4月1日付異動発令</p> <p>品質保証室長代理</p> <p>購買生産指導部付外向 全国酪農飼料㈱ 東海工場 次長 兼 品質管理課長</p>	<p>大阪支所 業務課長</p> <p>品質保証室長</p>	<p>大山 幸紀</p> <p>丸山 惣太郎</p>
<p>■令和6年4月1日付兼務発令</p> <p>大阪支所 次長 兼 購買畜産課長 兼 業務課長 兼 近畿事務所長</p>	<p>大阪支所 次長 兼 購買畜産課長 兼 近畿事務所長</p>	<p>下井 泰隆</p>
<p>■令和6年4月1日付昇進発令</p> <p>大阪支所 業務課長代理</p>	<p>大阪支所 業務課</p>	<p>大島 悠樹</p>

全酪連2024年の ニューフェイスが集結！

4月1日(月)、全酪連本所 酪農会館（東京都渋谷区）において令和6年度新入職員入会式が行われ、今年度は、大学卒業が16名、高校卒業が2名入会しました。

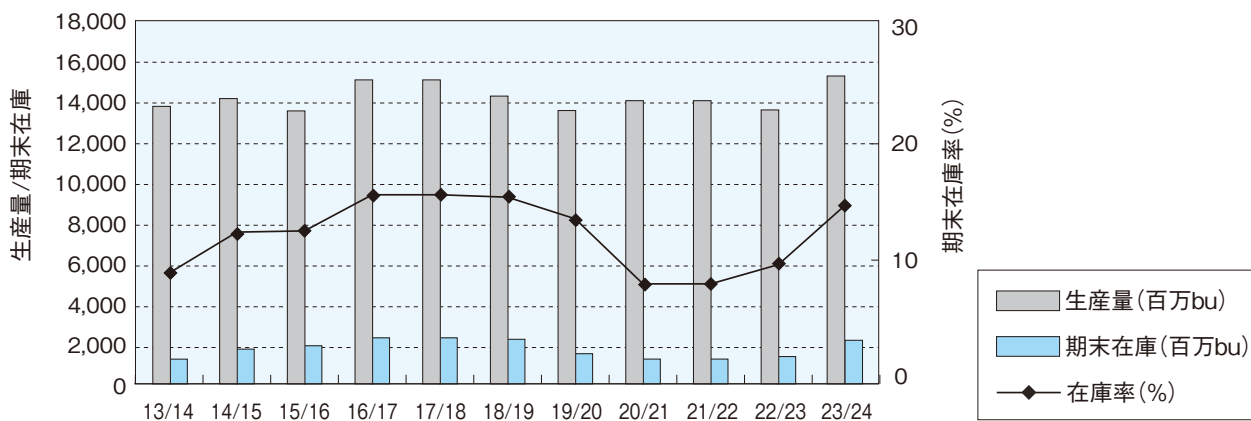
これからよろしくお願いいたします。



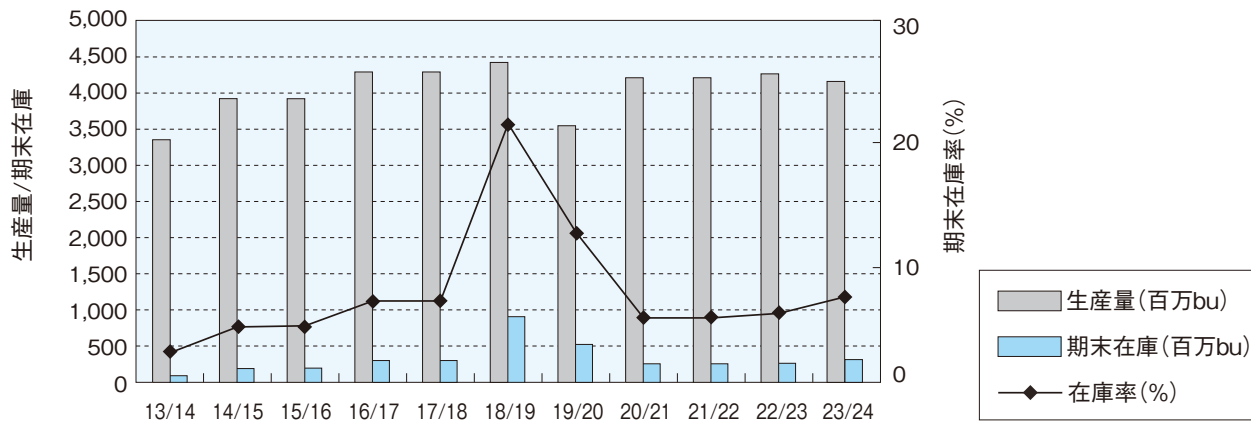


		22/23年産	23/24年産
3月8日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想	作付面積(百万エーカー)	88.2	94.6
	単 収(ブッシェル/エーカー)	173.4	177.3
	生 産 量(ブッシェル)	136億5,100万	153億4,200万
	需 要 量(ブッシェル)	137億600万	145億5,500万
	期末在庫(ブッシェル)	13億6,000万	21億7,200万
	在 庫 率	9.92%	14.92%
トウモロコシ 相場動向	シカゴ定期は投機筋が保有する大量の売越しに対する調整が入り上昇に転じているものの、ブラジル産2期作トウモロコシの作付けが順調に進捗していることもあり、上値重く推移している。当面の間はブラジル産の生育段階における天候や、米国産の24/25年産作付け動向には注視が必要となる。		
大豆粕相場動向	3月需給報告は全て据え置きなこともあり引き続き弱含みに推移している。中国はブラジル産の大豆を買付していることから米国産大豆粕の需要が弱含みシカゴ相場も軟調に推移している。		
槽糠類	【一般フスマ】 外食需要が回復しているものの、主製品（パンや麺など）の売り行きは回復していないことから、発生は前年並みに推移する見込み。また他槽糠類相場が弱含みに推移していることから、4-6月期の需給が心配される。		
	【グルテンフィード】 中国のトウモロコシが豊作なことからスターチの稼働も順調で価格は弱含み基調となっている。国産については3月以降稼働期に入るため需給は適正に推移すると見込まれる。		
海上運賃	米欧からのアジア向け貨物は、引き続きパナマ、スエズ運河を避けた航海日数の長い喜望峯ルートの配船を余儀なくされていることから海上運賃は上昇している。また、旧正月明けの中国の旺盛な石炭需要や、ブラジル産大豆輸出の本格化する季節に入るため、船舶需給が引き締まりフレート市況は上昇している。		

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



米国産大豆生産量と期末在庫の推移





輸入粗飼料の情勢

令和6年3月

北米コンテナ船情勢	<p>現在も北米西海岸航路は乗継航路を含めて主要な本船スケジュールに乱れが発生しており、状況は好転していません。中でもPNW（太平洋岸北西部）では頻りにスケジュール変更が発生し、カットオフ（輸出港のコンテナヤードへの搬入期限日時）直前に本船スケジュールが早まるケースが多発しており、突然の変更で輸出業者も作業が追いつかず船腹予約を後ろ倒しにする状況が増加しています。本船の船腹予約状況についても満船が続いており、一度スケジュールを後ろ倒しにしても翌週の船腹確保ができず、数週間後の船腹予約となることも多く、貨物の遅れに滑車をかけている状況です。降水量不足の懸念があるパナマ運河では引き続き通行する船舶の通航隻数の制限を行っていますが、雨季に入る4月末までは現在の制限を継続する見込みです。スエズ運河近くの紅海ではイエメンの親イラン武装組織フーシ派による商業船への攻撃が続き、過去3ヶ月で40隻以上が標的となっています。スエズ運河経由の航路の運航再開を検討していた一部の船会社も状況が長引くと判断し、喜望峯ルートで欧州と中東を結ぶ新航路を開始するなどスエズ運河を経由せず、現況を改善する対策を行っていますが、引き続き世界の物流状況の回復までは時間がかかる見込みです。</p>
ビートパルプ	<p>【米国産】 主産地であるノースダコタ州やミネソタ州では例年より温暖な気候が続いています。2月は記録的な高温に見舞われたことで、屋外で保管されている砂糖大根の品質劣化が進み、廃棄量が増えたことでビートパルプの生産量は減少する見込みです。3月も温暖な気候が続くことが予測されており、更なる生産量の減少が懸念されています。</p>
アルファルファ	<p>ワシントン州やオレゴン州といったPNW地域（太平洋岸北西部）では引き続き、上級品の引き合いが強い状況が続いています。一部の生産農家では降雨や降雪により品質が劣化した低級品在庫を抱えていますが、輸出向けには適さない品質のため米国内酪農家向けに出荷される見通しです。カリフォルニア州南部のインペリアルバレーでは、2月以降も降雨が続いており、1番刈の収穫作業に遅れが発生しています。品質は降雨により刈取り適期を逃した影響で、中級品の発生が多くなる見通しです。産地当局から発表された、2月15日付けのインペリアルバレーにおけるアルファルファの作付面積は前年同期比96%となる146,577エーカーとなっています。中国向けも昨年は上海港に多くの在庫を保有していましたが、在庫消化に目途が立っています。現在、中国乳価は低迷しており、今後すぐに引き合いが強まる可能性は低い見通しですが、今後の動向には注視が必要です。</p>
米国乳価について	<p>USDA（米国農務省）の発表によると、米国酪農家の乳価の指標となるClass III乳価は2022年5月には100ポンドあたり25.21ドルまで上昇しましたが、アジア諸国やメキシコでの需要減退により米国産乳製品の輸出が減少していることが影響し、現在では100ポンドあたり16.08ドルとなっています。乳価の低迷により米国内の酪農家は積極的に買付をすることができず、アルファルファの産地相場は落ち着いていますが、中東やサウジアラビアといった他国の動向を含めて注視が必要です。</p> <div data-bbox="938 846 1445 1084"> <p>US Milk Price class III</p> <p>出典:USDA 2022年1月～2024年全米平均クラスⅢ乳価 単位:米国ドル/100ポンド</p> </div>
スーダングラス	<p>24年産の播種開始は3月上旬の見込みです。24年産の作付面積は23年産価格軟化や日本の需要減少により、生産農家の意欲も低下しているため減少すると予想されています。生産農家も上昇した生産コストを補うために品質重視ではなく、収量重視で考えていることから中～低級品の生産が主になるのではとの声も出ています。日本向けの需要に対しては未だに22年産の旧穀在庫を抱えている輸出業者もいるため供給力に懸念はないと思われます。</p>
クレイングラス	<p>クレインは全酪連の登録商標です。</p> <p>23年産の相場価格はミード湖の水位上昇による水不足の解消、干ばつ状況も緩和されたため軟調に推移しました。米国当局が2月27日に発表した米国西海岸における干ばつ状況は昨年同時期と比べて改善しています。カリフォルニア州南部インペリアルバレーの灌漑局から発表となった2月15日時点の作付面積は21,378エーカー（昨年同時期22,014エーカー）、前年同期比97%となっています。依然として米国内需からの引き合いは少ないものの、日本や韓国向けの出荷は安定している状況です。24年産の1番刈収穫に向け圃場への散水作業が3月中下旬頃より開始される見通しです。ファロープログラム（休耕地政策）について現地の最新情報を総合的に判断すると、現時点で実施するかは不透明な状況です。仮に実施された場合でもこの政策に参加するかは生産農家の任意であり、また産地価格を形成する要素は他にも多数あることから、ファロープログラムが産地相場の高騰に直結するとは言えず冷静に情勢を見ていく必要があります。</p> <div data-bbox="938 1249 1445 1487"> <p>Intensity</p> <ul style="list-style-type: none"> None D0 (Abnormally Dry) D1 (Moderate Drought) D2 (Severe Drought) D3 (Extreme Drought) D4 (Exceptional Drought) No Data <p>（西海岸の干ばつ状況の比較。色が濃くなるほど干ばつ状況が厳しい。） 左:2024年2月27日 右:2023年2月28日 出典:National Drought Mitigation Center</p> </div>
ストロー類（フェスキュー・ライグラス）	<p>オレゴン州主要積み出し港のポートランド港で慢性的な空コンテナ不足による船積み苦戦により一時的に日本からの引き合いが増しましたが、現在は軟化しています。韓国向けについては韓国国内の飼料費や生産資材費の上昇により肥育農家の経営状況も芳しくないため、輸入ストローの代替として国産稲わらを使う動きがあり、需要は減退しています。産地については降雨もあり土壌環境も良好で、24年産の作付面積は増加する見通しです。</p>
チモシー	<p>【カナダ産】 主産地であるアルバータ州中部クレモナ地区、南部レスブリッジ地区では1月は大雪の影響で気温が下がりましたが、2月は春先並の気候となりカナダ国内酪農家向けの越冬用需要が軟化したことから、引き合いは例年より少なくなっています。カナダ国内と輸出向け需要は減退していることから24年産の作付面積は減少する見通しです。</p>
オーツハイ・ウィートストロー	<p>【豪州産】 23年産オーツハイの作況は全豪全体で降雨が少なかった影響により大半が上級品の発生で、中～低級品の発生は限定的となりました。現在、豪州では猛暑や豪雨、強風といった異常気象が続き、長時間の停電が発生している地域もあります。また、南東部のビクトリア州では猛烈な熱波に見舞われたことで山火が発生し、避難指示が出るほど甚大な被害が発生しています。輸出需要は安定していますが、昨年のランピースキン病（全身の皮膚の結節や水腫、発熱、泌乳量の減少などの症状が出る伝染病）の流行で需要が減退した韓国からの引き合いが回復しています。豪州の各輸出業者の輸出認可が更新された中国向けの輸出量についても月を重ねるごとに増加しており、今後の動きには注視が必要です。</p>
豪州ストライキについて	<p>Maritime Union（港湾労働者組合）と DP World terminal（港湾施設）間での労使交渉は2月2日に原則4年間の新たな協定を締結し、終了しています。ストライキによる影響で本船スケジュールの乱れが懸念されていましたが、豪州国内での港湾作業が通常運転に戻ったことで、入船が早まるケースも出てきています。</p>

作品募集のお知らせ

第50回

らくのう こどもギャラリー

① 募集規定

- (1)酪農を中心とした題材の図画（大きさは自由）
- (2)自作で未発表のものに限りです。
- (3)作品には、**題名・住所・氏名・振り仮名・年齢・学校名・学年・保護者名を必ず記載してください。また、酪農家の子弟については保護者の所属組合名を記載してください。**
- (4)作品返却を希望される方は応募時に返却希望の旨を申し出てください。

② 応募資格

4歳から中学生までの酪農家の子弟、および酪農に関心のある一般のお子さん。

③ 締切日

令和6年5月31日(金) (必着)
または、各地域会議締切日に準ずる。

④ 提出先

下記「提出先一覧」中の最寄りの酪農青年女性会議事務局宛に提出してください。

⑤ 審査結果の発表

「第51回全国酪農青年女性酪農発表大会」の発表要旨、および全酪連会報7月号に審査結果を掲載いたします。

⑥ 褒賞

- ・特選 1点
- ・入選 4点
- ・秀作 若干
- ・ファミリー賞 若干
(牛とのふれあいなど、ほのぼのとした雰囲気を持つ作品に贈られます)
- ・あすなる賞 若干
(小学校入学以前の方の優秀作品に贈られます)



第49回 特選
「ごはんを食べるホルスタインと乳しぼりするポク」
穴見 祥太郎さん

◎入賞者には記念品を贈呈いたします。

◎図画の優秀作品は、作者の顔写真・審査講評と共に「全酪連会報」の最終ページに掲載します。

◎入賞された作品は、令和7年開催の第16回全日本ホルスタイン共進会(主催:一般社団法人日本ホルスタイン登録協会)の告知のための制作物等に使用されることがありますのでご了承ください。

第14回

酪農いきいき フォトコンテスト

全国酪農青年女性会議では、酪農家の生活や牛乳の生産現場をより鮮明に消費者に伝えていくことを目的に、「酪農いきいきフォトコンテスト」を実施します。

つきましては、下記のとおり作品を募集しますので、ふるってご応募いただけますようお願いいたします。

① テーマ

- (1)「乳牛のいる風景」
- (2)「酪農作業風景」

※いずれも、酪農家がいきいきと牛乳生産に励む様子や、安心安全な牛乳生産のため懸命に仕事に取り組む姿勢が感じられるようなもの。

② 募集規定

- (1)写真は可能な限りデータで提出してください。
- (2)自作で未発表のものに限りです。
- (3)作品には、**題名・氏名・振り仮名・住所・所属組合名を必ず記載してください。**
- (4)応募点数：お1人様1作品のみ



第13回 特選
「モーモーちゃん、いつも美味しいお乳を出してくれて、ありがとう♥」
松島太一氏 撮影

③ 応募資格

酪農家

④ 締切日

令和6年6月30日(日) (必着)
または、各地域会議締切日に準ずる。

⑤ 提出先

下記「提出先一覧」中の最寄りの酪農青年女性会議事務局宛に提出してください。または、全国酪農青年女性会議公式LINEでも応募可能予定です。詳細は決まり次第、全国酪農青年女性会議公式LINEで告知します。

酪農青年女性会議 公式LINE

@642bpcwk

⑥ 審査方法

応募作品を「第51回全国酪農青年女性酪農発表大会」の会場内に掲載し、大会参加者の投票による審査を行います。
※応募多数の場合は事務局による予備審査を行います。

⑦ 審査結果の発表

- (1)「第51回全国酪農青年女性酪農発表大会」にて発表します。
- (2)「全酪連会報」の表紙に使用します。(号数未定)

⑧ 褒賞

- ・特選 1点
- ・入選 若干

◎入賞者には賞品を贈呈いたします。

◎提出していただいた作品の返却はいたしません。

◎応募していただいた作品は、全酪連会報およびカレンダーへの掲載を含め、今後各地での牛乳消費拡大活動(「父の日に牛乳を贈ろう!」キャンペーン含む)等で使用することがありますのでご了承ください。

提出先一覧

●北海道酪農青年女性会議

〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目1
酪農センター5階 全酪連札幌支所内
TEL 011-241-0765

●東北酪農青年女性会議

〒980-0021 仙台市青葉区中央1-7-20
東邦ビル3階 全酪連仙台支所内
TEL 022-221-5381

●関東甲信越酪農青年女性会議

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-37-2
酪農会館 全酪連東京支所内
TEL 03-5931-8011

●中部酪農青年女性会議

〒460-0008 名古屋市中区栄1-16-6
名古屋三蔵ビル3階 全酪連名古屋支所内
TEL 052-209-5611

●西日本酪農青年女性会議

〒532-0011 大阪市淀川区西中島5-14-10
新大阪トヨタビル6階 全酪連大阪支所内
TEL 06-6305-4196

●九州酪農青年女性会議

〒812-0016 福岡市博多区博多駅南1-2-15
事務機ビル7階 全酪連福岡支所内
TEL 092-431-8111

令和6年

7/18 木 ▶ 19 金

日程

7月18日 木

13:00~13:50 開会式
 13:55~16:15 酪農経営発表
 16:15~16:25 らくのうこどもギャラリー表彰式
 16:40~18:15 酪農意見・体験発表
 19:20~21:30 懇親会

7月19日 金

9:00~ 開会
 10:20~11:40 審査講評・表彰式
 11:40~11:45 新旧役員紹介
 11:45~11:50 閉会式

大会参加費

1名 **5,000円** (大会のみ) 1名 **15,000円** (大会・懇親会)
 ※宿泊につきましては、各地域会議事務局にお問い合わせください。

大会会場・アクセス

● 会場・宿泊

「名古屋 東急ホテル」
 〒460-0008 名古屋市中区栄 4-6-8
 Tel 052-251-2411



● アクセス



● 鉄道の場合
 地下鉄東山線「栄駅」下車
 12番出口から徒歩5分。
 ● 車の場合
 高速都心環状線 東新町
 出口から「東新町」交差点
 を右へすく。
 ● 飛行機でお越しの場合
 セントレア(中部国際空港)
 からは乗合タクシーが便利
 です。所要時間約50分。

酪農発表大会
 全国酪農青年女性

主催 全国酪農青年女性会議 / 全国酪農業協同組合連合会



大会事務局

全国酪農青年女性会議

〒151-0053 東京都渋谷区代々木一丁目 37 番 2 号 酪農会館
 全酪連 総務部 組織対策課 内 / TEL. 03-5931-8003



2/15

監事監査（於 全国酪農協会会議室）

2/21

事務局長・事務局担当者会議（於 参議院議員会館会議室）

令和6年度通常総会議案書内容の説明、および農林水産省牛乳乳製品課 平田裕祐課長補佐より
令和6年度酪農関連対策について説明。



▲ 事務局長会議



▲ 平田課長補佐

3/6

三役会議、中央委員会、通常総会、
中央常任委員会（於 自由民主党本部）
自由民主党酪政会との懇親会（於 自由民主党本部）
通常総会は41会員81名出席。
上程した議案はすべて承認された。
自由民主党酪政会との懇親会は議員80名（代理含む）が出席。



▲ 総会会場



▲ 酪政会懇親会



▲ 自民党酪政会 森会長挨拶

通常総会終了後の中央常任委員会において
役員の内選が行われ、以下の通り役員が選任された。

委員長	木本 栄一（新任）
副委員長	柴田 輝男（再任）
同	宮本貞治郎（再任）
同	清水 清人（再任）
同	三宅 穰次（新任）
会計責任者	柴田 輝男（再任）
幹事長	坂本 保（再任）



▲ 木本委員長 新任挨拶



▲ 三宅副委員長 新任挨拶



乳牛産地情報

令和6年4月1日現在

価格状況 ▲……強含み ▼……やや強含み →……横這い ⇐……やや弱含み ↓……弱含み

札幌支所 TEL 011-241-0765
 釧路事務所 TEL 0154-52-1232
 根室駐在員事務所 TEL 01537-6-1877
 帯広事務所 TEL 0155-37-6051
 道北事務所 TEL 01654-2-2368

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	30~40	→	札幌管内の3月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計で94.4%、累計で94.0%、苫小牧管内月計で96.7%、累計で93.1%の実績となっております。4月の初妊牛動向といたしまして、6月中旬~7月分娩中心となります。道内外ともに初妊牛への需要が高まってきており、市場においても堅調な動きが継続していることから、横這いになると予想されます。4月に入ると、夏分娩が出回りはじめることから、資源が回復してきますが、雌雄選別腹は引き続き出回り資源が少ないと予想されます。管内庭先購買につきまして、高能力牛が多い地域であることから、優良血統や高能力牛をご案内できると思っておりますので、よろしくお願いたします。
	初妊牛	60~70	→	
	経産牛	45~55	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	35~45	→	根釧管内の3月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で101.4%、累計で96.9%、中標津管内月計で102.8%、累計で97.9%の実績となっております。4月の初妊牛動向といたしまして、6月~7月中旬の分娩中心となります。管内における牛の引き合いが強く、夏分娩に近づく腹の出回り資源となりますが、前月の高値を維持し、横這いで推移するものと見込まれます。腹別における価格推移としては、F1腹・雌雄選別腹は堅調に推移するものと思われ、和牛受精卵移植腹はやや軟調に推移するものと思われ、春分娩可能な育成牛や受胎した経産牛も需要があり、こちらも横ばいで推移するものと見込まれます。
	初妊牛	65~75	→	
	経産牛	50~55	→	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	37~47	→	帯広管内の3月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で101.6%、累計で96.1%の実績となっております。4月の初妊牛動向といたしまして、6月中旬~7月分娩が中心となります。資源不足であった5月分娩腹の引き合いが強く、道内外からの需要が高まっていたが、夏分娩以降は資源が回復するため、やや弱含みに推移すると見込まれます。腹別の資源状況は、引き続き雌雄選別腹が少なく、F1腹については、ギガファームの引き合いが強く堅調な相場となっております。和牛受精卵移植腹につきましては、血統による価格差が大きくなっています。また、産次数が少なく即戦力となる経産牛につきましては、道内を中心に引き合いが強くなっています。
	初妊牛	63~73	⇐	
	経産牛	50~55	→	
道北管内	育成牛(10-12月令)	35~45	→	道北管内の3月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で97.7%、累計で95.5%、北見管内月計で102.4%、累計で96.5%の実績となっております。4月の初妊牛動向といたしまして、6月中旬~7月分娩が中心となります。分娩に近い牛ほど引き合いが強くなると思われるため、横這いで推移すると見込まれます。雌雄選別腹については、自家保有する酪農家が多い傾向から、出回り資源が少ない状況が続いています。生乳生産意欲が高まっているため、来春分娩に期待できる育成牛と、即戦力で期待が持てる経産牛の需要も引き続き高いままと見込まれます。
	初妊牛	60~70	→	
	経産牛	48~58	→	
道内総括	育成牛(10-12月令)	35~45	→	道内の3月中旬までの生乳生産量前年比は100.9%、累計で96.5%の実績となっております。北海道では、順調に雪解けも進み、畑作業も始まる季節となってきました。4月の初妊牛動向といたしまして、6月中旬~7月分娩中心となり、夏分娩が出回り始めます。各地域、春分娩の資源が少なく高値で推移しており、4月まではその影響を受けると見込まれます。今後は授精の偏りから資源も豊富となる見込みであり、相場はある程度落ち着くのではないかと予想される一方で、道内では生乳生産回復に向けて後継牛を確保する動きもありますので、例年通りの夏分娩相場となるかは予想が難しく、今後の動向を注視していきたいと思っております。今年度につきましても、庭先選畜購買を中心に優良搾乳素牛を導入していきますので、導入計画がございましたらお早めのご注文を宜しくお願い致します。
	初妊牛	65~75	→	
	経産牛	50~55	→	

今月の表紙

今月の表紙は「第13回酪農いきいきフォトコンテスト」に応募いただいた作品「牛と桜」(宮城県 阿部由紀子氏 撮影)です。



編集後記

- 新年度が始まり、桜の花が満開の今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。4月は多くの人にとって、新たな一步を踏み出す季節です。皆様それぞれの場所で輝けるよう、心から応援しています。今年度も皆様にとって有意義な情報をお届けできるよう、精進して参りますのでどうぞご期待ください。
- 会報に関するご意見・ご要望等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです。
shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

令和6年4月10日発行(毎月1回10日発行)

全酪連会報 4月号 No.703

● 編集・発行人 岡田征雄
 ● 発行 全国酪農業協同組合連合会
 〒151-0053 東京都渋谷区代々木一丁目37番2号 酪農会館
 TEL 03-5931-8003 <https://www.zenrakuren.or.jp/>

今月の

らくのう

こどもギャラリー

入賞作品紹介



じいじのふれあい牧場

品川区立伊藤小学校 1年（西日本） 大塚若菜

今月の入賞作品は…

品川区立伊藤小学校 1年（西日本）の大塚若菜さんの作品です。

お祖父さんの営む牧場の様子を描いた作品。牛舎の様子が愛らしい2頭の牛さんと共に細かく描かれています。若菜さんは同じテーマで2枚も作品を送ってくれました。じいじの牧場が大好きなんですね。



※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第49回らくのうこどもギャラリー」で全国138点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議